

奈良の正倉院がシルクロードの東の集積地なのであれば、ジョンソンにとって京都は、アジア大陸という虹の麓にある「金の壺」だ。この地は魅惑的な色相に染められたテキスタイルで満たされている。

フィンランドはどうか？それは大昔の貿易ルートの西洋の終着駅の一つでもあり、ジョンソンにとっては北欧のフェルト・ブーツ・メイキングを学んだ場所である。

京都の祇園祭に行ったことがあれば、ひろく街中に展示されている時代も様式も様々なテキスタイルを一目見たことはあるかもしれない。だが、一般的には地球上の他のどこでも見ることができないようなものはい、彼女のコレクションや美術館の倉庫、アンティーク・ショップにしかないので、熱狂的なテキスタイルファンでないと簡単には見ることができない。この街ではいつも新しい不思議に出会う。

土着の、遊牧民的な視点とは対照的に、現代芸術大学校的な視点から私のキャリアを説明すると、ユニークな服飾、インテリア雑貨、そして現代アートに使う手作りのフェルトの立場をとっている。ジョンソンはいつも製造過程でウールの可能性を表現することを意識してきた。

Jorie Johnson

ジョリー・ジョンソン



基盤となるウール繊維が、素材を突き刺し、絡み合い、強いフェルトの母体に引き込むことができ、生地を作りながら同時に、粗い布、レース、和紙などを模様として一体化させてしまうフェルトの「魔法」の前にはアップリケなど必要ない。

個性的なウール繊維の真髄と、それを特定の条件下で増幅・操作できることは、かつて誰も見たことがない「現代の遊牧民」のアートを、この魅力的な媒体を通じて生産するための出発である。

古からの技法であるフェルトメイキングは、適切に明文化されなければすぐに人工的なスポーツウェア、特にリサイクルされたペットボトルでできているポーラーフリースの流入によって、廃れてしまう。羊や山羊、その他の哺乳動物からとれる本物のフリースは、保護、安定、そして経済的な力を、戦時中にさえ提供してきた。

まとめると、JoiRaeテキスタイルズはギャラリー展示のための生産だけでなく、歴史的研究や探検までを含んだ活動をしている。ジョンソンは国際的なシンポジウムに出席・講演をし、ハンズオンのワークショップを主導し、日本の美術大学や「障害のある若者」のアート・ワークショップの課程に貢献している。2011年からは宮内庁奈良の研究者として活動している。



ジョリー・ジョンソン《主な受賞》
1993 高岡クラフトコンペ「北川原温賞」
1993 ニュージーランド・ナショナル・ウールクラフト祭展「ベスト作品賞」
1998 Virtuoso Fabrics Exhibition HGA Convergence「優秀賞」(米国 ジョージア)
1999 第6回国際テキスタイルコンペティション、'2000、'01、'04 Japan Creations
テキスタイルコンテスト「日本テキスタイルデザイン賞」「優秀賞」
2009 第23回京都芸術祭国際交流総合展「京都府国際センター賞」
2010 第24回京都芸術祭国際交流総合展「ランド賞」
2022 第36回京都芸術祭国際交流総合展「京都市長賞」

《コレクション》
Victoria & Albert Museum London (英国) Denver Art Museum (米国)
Cooper Hewitt, Smithsonian National Design Museum (米国) 奈良国立博物館 (奈良) 他多数

Hiroshi Saito

齋藤洋

6年ぶりの夢雲展。身が引き締まる思いです。

手描き染の布 kazafu (コスチュームやタペストリー)のほか、残布や残糸のコラージュ go whereなどの平面作品も制作しました。今回は長き友であるジョリー・ジョンソンとの二人展。

ジョリーが40年ほど前に日本に来てくれて、

フェルト文化が根付いたように思う。

作家としてはもちろん、教育者として卓越したものがあると思います。

私とジョリーとの出会いは40年ほど前。

繋げてくれたのは 故・竹田安嵯代さんです。

会場には彼女との Memorial Cornerを設けたいと思います。



[コスチューム製作・高木ゆり] 風工房の布・風布kazafuを、高木ゆりさんがデザイン・仕立てたもの



齋藤 洋さんの野染めワークショップ

日時：10月17日(土) 11時～12時

雨天の場合 10月18日(日) 夢雲SNSにて情報をご確認ください

定員：先着 40組 (1組 50cm×120cmの野染布をシェア)

参加費：1組 1,000円

ご予約の際はメールにて以下の内容をお知らせください

お名前／人数／電話番号

メールアドレス：contact@gallerymoon.jp

予約優先・参加者募集中！



1999年「フェルトメイキングウールマジック」刊行(青幻社) (2006年：英語、エストニア語)
2007年「Fabulous Felted Scarves」 J. Johnson 共著(Lark Books, USA)

Jorie Johnson ジョリー・ジョンソン JoiRaeテキスタイルズ
〒612-8025 京都市伏見区桃山与五郎町1-186 工房TEL:075-611-3800 www.JoiRae.com

ジョリー・ジョンソン Jorie Johnson プロフィール
米国ボストン生まれ。米国(RISD)およびフィンランドの大学でテキスタイルデザインを学ぶ。1977年にスキャンディナビアのフェルトブーツ作りを学ぶことで初めてフェルト作りに出会い1979年ボストンにてテキスタイル工房「JoiRae Textiles」を設立。以後30年以上にわたり、国際シンポジウムへの参加、ワークショップをはじめ、世界各国でのフェルトテキスタイル作品の発表など、国内外においてその技術を広め、研究を続けている。1988年来日、現在京都在住。2011年より、宮内庁奈良研究所の研究員として招かれ、正倉院宝物館所蔵の動物繊維織物を研究している。文化学園大学、金沢美術工芸大学,等非常勤講師。